

東交大同窓会会報

第 34 号

平成二十二年三月八日

東京交通短期大学同窓会

発行責任者 半沢貞夫
編集責任者 西形伸次

学校と同窓会の協調により、 双方の発展をめざそう

同窓会長 半沢 貞夫



わが国に鉄道が
開通して約一四〇年、新幹線が
開業して約四〇
年、国鉄が民営・

分割化されて二〇年、そして母校、東京交通短期大学は五十七回目の卒業生が羽ばたき、同窓生の仲間入りをされます。わが国唯一の交通を専門とする学校の卒業生という誇りをもって、各分野での活躍をご期待申し上げます。

百年に一度といわれる、未曾有な世界的不況の中、鉄道界においてもJR各社の二十一年度第三・四半期決算に見るとおり景気低迷に加え、新型インフルエンザ、高料金割引等の影響で各社大幅な減収減益となり、苦戦を強いられ、必然的に就職面においても大きな影響が表れ

ています。幸い、交通短大として就職支

援の科目設定の強化を図られたことにより、交通関係企業はじめ一般企業就職内定者が増加しておりますとのこと、交通短大の卒業生としての真価を発揮できるチャンスではないかと思えます。

このような中、昨年初の試みとして、毎年秋に開催される学園祭「東交祭」において、卒業生と在学生のコミュニケーションを図り、かつ交通短大の発展に寄与することを目的に、「同窓会コーナー」を設けさせていただきました。

コーナーでは、在校生、入学希望者等への相談受付、鉄道会社の会社案内の閲覧、物販などを行いました。相談窓口では卒業生の経験等を在校生との真剣な話し合いが交わされるなど、大変有意義な催しとなりました。

準備を含め、三日間にわたり手弁当でご協力いただいたスタッフの皆さんには唯々感謝申し上げます。また、物販におけるお釣り等のご寄付につきましては本会計に繰り入れさせていただきました。誌面をお借りし御礼申し上げます。

本年につきましても皆さんのご協力の下で、引き続きコーナーの設置を検討しております。沢山の皆さんにご来場、ご参加いただき、盛り上げていただければ幸いです。

また、今後の同窓会の活動領域を考えると、まず同窓生同志の交流の輪を広げるための方策を考えることはもちろん、在校生のために何が出来るかを模索することになるかと思えます。その一環ともなったイベントでしたが、幸い学校側のご好意もあり成功だったと思えます。同窓会と学校の協調により、双方の発展に繋がる領域はまだまだ広がる要素は充分あるものと思えます。

さて、同窓会も本誌の会計報告に見るとおり、収支状態は健全とはいえません。執行部としましては、会報のページ数の減、メール送信による通信費の減等検討中ですが、同窓生全員の横の繋がりをより強固とし、また交通短大の発展に寄与するためには財政基盤の確立を図る必要があります。会員皆さんの良策をご期待するとともに、今後ともご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

(交通新聞サービス勤務)



東交祭同窓会ブースおよび同窓会総会に於いて

キャリア支援科目の独立と

充実などについて

～同窓会との連携～

学長 田中 宏司



厳しい経済情勢を反映して、本学への入学希望者が、大幅に増加している。

希望者の目指すものは、本学で交通科
等中心の教育をうけて、交通等関連企業
への就職にある。

本学としては、建学の精神、教育理念
等に基づき、「社会の発展に貢献する有
意な人材を育成する」ために、まず素材
としての入学生のレベルアップを図るよ
うに入試制度を見直し選考する一方、最
終目的としては、交通分野を中心に企業
人として活躍できるように、理論と実践
を統合的に教育できるように配慮してカ
リキュラムを工夫しなければならない。
そこで、新年度から、「キャリア支援
科目」を基礎教養科目から独立させて、
大筋として次の通り内容を充実する。

第一に、現行のキャリア情報科目に加

えて、「キャリア支援科目」を新設し、
企業人になるために基本常識をはじめ、
就職対応について具体的な訓練を行うな
ど充実する。

第二に、交通等関連企業への就職に不
可欠な教学について、現行の「鉄道教学」
のほか、さらに基本的な「基礎数学」を
科目として新設する。

一方、現行基礎教養科目となっている
「基礎ゼミ」では、受講生一人ひとりが
国語力の向上、企業人になるための心構
えなどをより具体的な訓練を通じて、習
熟するように強化する。さらに「特別教
養講座」では、同窓会メンバーなど外部
講師を中心にオムニバス方式で幅広い社
会の生きた情報を受講生に提供していく。
このような「キャリア支援科目」をは
じめ、「特別教養講座」では、これまで
以上に同窓会との連携を密にして、社会
で活躍している同窓会メンバーから、現
場の生の声を講義に反映させたい。受講
生にとり有益で感動する科目にすること
を目指して、皆様のご協力を心からお願
いする次第である。



平成二十一年度学事報告

副学長 松岡 弘樹



同窓会会員の
皆様におかれま
しては、益々ご
清祥のことと大
慶に存じます。

さて、本年度も、平成二十一年度の学
事について簡単にご報告させていただき
ます。

一・新・退任教員について

本年度は新たに五人の先生方が専任教
員として就任されましたので、以下、簡
単に各先生方の経歴をご紹介します。
だきます。

◎森住正明先生：森住先生は、早稲田
大学法学部を卒業され、大学、専門学校
等で講師を勤められた後、平成十四年に、
昭和鉄道高校、短大に赴任されました。
短大では、非常勤講師として、旅行業務
論、観光関係法規などの観光関係の要の
科目をご担当されておられます。また、
毎年、八月に実施しております「旅行業
務取扱主任者試験」の講習会でも、中心
的役割を果たしていただいております。

◎岡本久先生：岡本先生は、明治大学
政経学部を卒業後、財団法人運輸調査局
に二〇〇五年に退任されるまで三十三年
間の長きに渡り勤務され、この間、研究
部長の要職を勤めるとともに、数々の研
究業績を残されました。本学では、一九
九二年に非常勤講師として赴任され、統
計学をご担当されておられます。

◎小池知之先生：小池先生は、青山学
院大学文学部卒業後、アメリカのレスリ
ー大学の大学院の修士課程を修了されま
した。その後、明治大学、跡見学園女子
大学、拓殖大学、大東文化大学などの各
大学で講師として勤務され、短大へは、
二〇〇〇年に英語の非常勤講師として赴
任されました。

以上の先生方は、短大の非常勤講師と
して、すでに勤務されていた先生方です
が、次に外部から新たに赴任された先生
方をご紹介します。

◎守屋安正先生：守屋先生は、中央大
学理工学部卒業後、関東学院大学大学院
の博士前期課程に進まれ、横浜市立大学
の博士後期課程を満期退学された後、富
士ゼロックス株式会社に入社されました。
同会社を今年三月に退職されるまでは、
各開発プロジェクトの開発リーダー、グ
ループ長、調査研究事業部長、関西事業

本部長付専任部長等の要職を勤められ、この間、成蹊大学、駿河台大学、東洋大学、拓殖大学、嘉悦大学などの各大学で教鞭もとられました。

◎桜井武典先生：桜井先生は、神奈川大学経営学部卒業後、同大学大学院を進まれ、経営学博士号を取得されておられます。同大学院を修了後は、神奈川大学、拓殖大学などで教壇に立たれるとともに、同大学の研究所に研究員として所属され、環境関係の分野を中心とした研究活動を行っておられます。

いずれの先生もそれぞれの専門分野で、長年に渡りご活躍をされてこられた方ばかりです。短大においても、長年培われたご経験を生かされてのご活躍を期待したいと思います。

二. 学校行事について

本年度の学校行事に関しては、前期には、四月に入学式・一年次および二年次オリエンテーション、五月に学外レクリエーション（ハタススポーツプラザにてボウリング大会）、六月に第一回オープンキャンパス、七月に第二回・第三回オープンキャンパス、八月に第四回オープンキャンパス、九月に東交祭・第五回オープンキャンパスの各行事を実施いたしました。

後期には、十月に専門ゼミ説明会、交通見学会（東京ベイ幕張ホテルにて洋食テーブルマナー講習会の後、東京モーターショー見学）、十二月に専門ゼミ発表会の各行事を実施し、三月に卒業式を予定しております。

三. 時間割について

二〇一〇（平成二十二）年度の時間割（案）の日程が別表のように決まりました。次年度のカリキュラムに関しましては、専任教員の増員に伴い、専門科目を中心としたカリキュラムの見直しを行いました。

又、二〇一〇年度の特別教養講座につきましても、別表のように日程が決まりました。同講座は公開講座となっておりますので、同窓会会員の皆様のご参加をお待ちいたしております。

同窓会事務局より

同窓生各位、同級生、先輩、後輩の住所や勤務先等の変更がありましたら、左記まで連絡をお願い致します。
〒一七〇〇〇一一

東京都豊島区池袋本町二一九一
東京交通短期大学 同窓会事務局宛
E-mail:toukouOB@gmail.com

就職（進路）室たより

就職（進路）室長

佐藤 勝治
桑原 賢二



同窓会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。同窓会報の原稿執筆の時期を迎え、月並みな表現ですが、一年の早さを痛切に感じております。

さて、ご承知の通り、昨今の就職氷河期に巻き込まれた二年次生（本年度卒業生）の就職活動は、非常に厳しい戦いを強いられました。

平成二〇年度入学生は、前期まで好景気の余韻が残り、就職戦線も例年通りの対策で十分、学生からは「売り手市場」的雰囲気の色濃く残っております。しかし、東交祭・後期授業開始の直前になって、リーマン・ブラザーズ証券の破綻をきっかけにした世界的大不況に突入し、企業業績の悪化とともに、就職市場は著

しく冷え込むこととなりました。

前期まで安閑としていた一年次生は、後期授業開始以降、相当に戸惑い、企業からの内定取り消しも社会問題となり、企業の業績不振による派遣切りや正社員の雇用不安等とも相まって、就職試験に對して一層不安感が広がりました。

このような経済状況の中、本学の学生が目指している鉄道関連企業は、不況下において、堅実的な経営体質が評価され、安定企業として認知されることとなり、就職人気企業ランキングにおいては例年になく上位に躍進するほど、脚光を浴びている業界となりました。

しかし、このような冷え込んだ就職市場の中において、本学の進路状況は学生自身のモチベーションの維持、努力の成果が確実に実り、昨年以上の内定者を送り出すことができました。

今年も約九〇余名の卒業生が本学を巣立ち、実社会に羽ばたこうとしております。毎年のお祝いごとではございますが、入社後は、社会人、企業人としての自覚や心構えなどについて、心強いご指導ご鞭撻をいただきましたら幸甚でございます。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、就職支援科目の正課授業組み入

れ後三年目を迎え、講義カリキュラムからも総合的な就職(進路)支援を実施したところであり、総括的な就職対策・指導を「キャリア形成論・キャリア情報論」として桑原が、処理能力対策等を「キャリアアップ実践」として、佐藤が担当して参りました。

正課科目移行後、二年目となった今年度は、就職・進学希望者六十七名(昨年五十七名)中、交通関連企業へ四十六名(昨年同時期一名増)、一般企業へ十二名(昨年同時期四名)の合計五十八名(昨年同時期四十九名)の内定者を送り出すことができました。(二月十八日現在)就職希望者が増加したとはいえ、メイの交通関連企業内定者も増加、一般企業への就職者も倍増したことは、学生の奮起、奮闘以外の何ものでもありません。

- 【交通関連企業別内定者数】
- J R 東日本(長野支社)二名(昨年一名)
- J R 東海二名(昨年実績同数)
- J R 西日本一名(昨年内定無)
- J R 貨物(関東支社)一名(昨年九名)
- 東京地下鉄(東京メトロ)七名(昨年六名)
- 京成電鉄二名(昨年一名)

- 名古屋鉄道二名(昨年内定無)
- 京王電鉄三名(昨年内定無)
- 首都圏新都市鉄道一名(昨年内定無)
- 関東鉄道一名(昨年内定同数)
- 伊豆急行一名(昨年同数)
- 江ノ島電鉄一名(昨年内定無)
- 東京都交通局(協力会)十三名(昨年三名)
- 京急ステーションサービス四名(昨年三名)
- 吉原鉄道工業二名(昨年内定無)
- レールテック一名(昨年内定無)
- 東都自動車一名(昨年内定無)
- 東急リゾート一名(昨年内定無)

さらに、四名(昨年六名)が四年制大学等への編入学を決めております。本年度の採用試験も、前述のとおり、鉄道企業においては激戦となることは覚悟しなければならぬと思っております。雇用情勢の悪化により採用数の減少も避けられず、明るい材料がほとんど見当たらないのが現状であります。鉄道企業に限らずこの氷河期の就職試験対策は、早期対応がキーになることは言うまでもありません。そのために、平成二十二年度から就職支援科体制を「キャリア支援科目群」としてカリキュラムを再編・強化し、これまで以上にき

め細やかな支援体制とする予定にしております。これまで同様、目が行き届く指導が出来るよう、また今年以上に希望職種・企業への内定が叶うよう、万全を期したいと考えております。皆様からの進路支援に向けまして、ご助言、ご協力、ご指導を、心よりお願い申し上げます。

入試便り

学科長 岡本 久



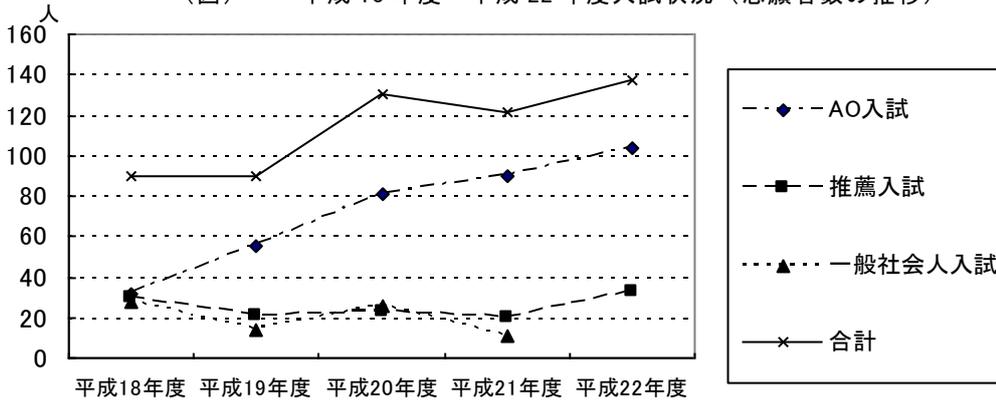
本年度より前任の沼田先生の後任として入試関係を担当させていただきます。

になりました。微力ではございますが、精一杯務めさせていただきますので、何とぞよろしく願います。それでは、本学入試状況についてご報告させていただきます。わが国にとりましてこの一年間は、様々な面で激動・変革の年であり、政治・経済・社会面では枚挙に暇がない事象が多々生じました。

このような世情の下、本学への入試は最近三カ年でみる限り、志願者数は堅調に推移しています。平成二十一年度入試の最終結果は、志願者数二二一名と定員枠を上回る結果を示し、一〇九名が昨年四月に入学いたしました。また、平成二十二年入試状況の途中経過はA〇入試一回、一般・社会人入試三回を残しておりますが、過去最高の志願者数が見込まれ、平成二十二年一月末現在一三七名の志願者が本学を受験しております。文科省の指導により平成二十二年度定員枠は昨年度より二名減の一〇七名と、志願者数の増加に対応しきれない状況にあります。

本学への志願者数の増加の背景には、不況で雇用情勢が悪化する中、比較的安定した鉄道会社への就職に失敗した大学や高校の卒業生が「就職浪人」するよりは本学できめ細かな専門知識を修得し、新卒として就職に直結させようと考えている、所謂「リベンジ学生」が増えていること等が推察されます。また、近年の実質所得が下がっている中、他の短大に比べて学費の低廉な点も志願者増加の背景にあるのではないのでしょうか。いずれにしても、少子化が進行する中、他の大学・短大では定員割れが続出している状

(図) 平成 18 年度～平成 22 年度入試状況 (志願者数の推移)



況ですが、学生数の確保の面では幸いにして本学は順調に推移しています。今後、これに甘んじることなく、学生数の確保と同時に本学のレベルアップを図るべく、種々の施策を進めていきたいと考えています。

会員解放区

ゴルフ雑感

第五回生 荒井 久夫

私がゴルフを始めたのは二十八歳、現場の管理者になった時、職場の先輩に勧められ練習もそこそこに HALF セットの河川敷デビューでした。その当時、ゴルフはお金がかかり金持ちのするスポーツと言われていた。硬式ボールでの野球経験もあったので棒を振ってボールに当てるぐらいは大丈夫と思いきや、何故か、静止している筈のボールになかなか当らず、空振り、手が痺れるほど地球を叩くやらで散々苦勞し基礎からしっかりと学ばねばと思いつながら、以来、四〇数年全くの自己流で九〇前後の付き合いゴルフが長く続いております。六十六歳現役引退を期に自宅近くのクラブメンバーとなり、月イチゴルフアークからクラブの月例会、同好会等で年四〇ラウンドぐらいプレーを楽しんでおります。

ラウンドを重ねる毎に新しい知人を得ることは、大いなる財産であり日々新鮮な気持ちも生まれます。



第五回生 鯉江 徹

私は現在、社団法人日本尺八連盟常務理事、社団法人日本三曲協会企画委員、

二〇〇九年は日本プロスポーツ界の最高の榮譽である日本プロスポーツ大賞、内閣総理大臣杯を今季四勝を挙げ約一億八千万円を獲得した史上初の十代賞金王に輝いた石川遼の大活躍でプロゴルフ界は男子女子ともシーズン最終戦まで賞金王が纏れる展開で、不景気風の吹く暗い世相の中、最高の盛り上がりでした。

以下はゴルフ発祥の地の格言ですが、

- ① 飛距離が自慢の幼稚園
 - ② スコアにこだわる小学生
 - ③ 景色が見えて中学生
 - ④ マナーに厳しい高校生
 - ⑤ 歴史が解って大学生
 - ⑥ 友、群れ集う卒業式
- 今だ、小学生の域を脱し得ませんがこれからも、最終目標である卒業式を迎えられるよう新しい仲間と切磋琢磨して行きたいと思っております。

日本古来の音楽に魅せられて

中野区邦楽連盟理事長などの役目を担いながら門人の会尺八清会の代表を務めています。

東京タワーが建ち上がった昭和三十三年に本校を卒業いたしました。

当時から勤務しておりました小田急電鉄の運輸部から観光部門を経由して昭和五十五年会社を退職し、尺八教授の道に転向しました。

それ以来三〇余年竹道一筋の人生を送っております。一病息災で、まだ現役でおりますことは幸せに思っております。

私の近況とのことで、年齢とともに前述の色々な役目を仰せつかり、仕事以外のことで大変忙しく過ごしております。

家庭では家内と二人の生活ですが、七人の孫を持ち、年々上がるお年玉の額が少々気に掛かりますが心嬉しく感じています。

私の人生は、人々のお力を借りながら、会社勤めの二〇余年は夢中でリハーサル、自由業となって現在に至るまで本番を経験しているところです。

私は日本の伝統音楽を伝承していますので最近の社会の風潮に何か軽薄さを感じています。物事の合理性ばかりを追求せず、日本人本来の優れた人間性を発展させることも必要だと思えます。一生続

けられる事柄に取り組むことは人生の選
択肢として尊いことと思います。

母校が創立六〇周年を間近に迎え、学
校経営が充実していることは、卒業生と
して喜びであります。益々の発展を祈り
ます。

同級生の藤井君、渡辺君、篠崎君の顔
を思い浮かべながら筆を置きます。有り
難うございました。

(社団法人日本尺八連盟常務理事)

社団法人日本三曲協会企画委員

中野区邦楽連盟理事長)

二〇一〇年寅年に思う

第十三回生 山本 礼治

新年明けましてお目出とうございます。
昨年を振り返りますと、日本では民主党
政権が誕生して政権交代が実現し、米国
では黒人初の大統領バラク・オバマ氏が
誕生するなど日米の政治において歴史的
な出来事が起きた年でした。今年はいっ
たいどんな一年になるのでしょうか。米
国に端を発した世界同時不況は最悪期を
脱したといわれますが、雇用、個人消費
等不安定さを払拭し、寅に象徴されるよ

うな勢いのある年になってほしいと思っ
ています。また今年は冬季オリンピック
とサッカーワールドカップが開催され日
本選手の活躍が明るい話題をもたらして
くれる事を期待しております。

さて、私の東交大生の思い出ですが当
時は勤労学生で東交大の最寄駅である北
池袋駅に勤務していました。当時は週休
二日制ではなく週一日の休日が出番、非
番を三回パターンで休日になる勤務で中
日に代務をやると三日勤務になり、大学
の出席日数が不足しないようにやりくり
に苦労したのが懐かしい思いです。また
非番で疲れて昼寝を過ぎて始業時間に
遅れないようにあわてて登校した事など
今思うと楽しかった出来ごとが記憶によ
みがえります。また北池袋駅勤務をして
た時は手荷物、小荷物扱いで全国各地に
配送したことなど時代を感じます。当時
は赤羽線(現埼京線)の板橋駅の貨車の
入れ換えにSLが使用され引き上げ線が
北池袋駅のホームの前まで有りSLの雄
姿を真近で頻繁に見ることができました。
それに原宿から出発した御召列車が当時
の赤羽線を経由して那須方面に行く際お
見かけすることも有り感激しました。
私はその後は車掌を一〇年程経験して
駅助役になり平成五年の春に定年退職を

し、引続き再雇用制度で現在も東上線
の駅に勤務しています。



私の趣味は月に二回程の山歩きと温泉
に入るのが大好きで、また映画や日本各
地の仏像見学や日用大工等も楽しんでい
ます。再雇用も今年の秋には終了しま
す。完全リタイヤ後は地元地域に根ざし
た活動を少しずつ行い、また長年に亘つ
て支えてくれた妻との旅行や趣味などを
楽しみなが肩肘張らずに生きていき
たいと思っております。
最後に東交大の益々の発展と皆様の一
層のご健勝とご多幸を心よりお祈り申
上げます。

(東武鉄道株式会社 勤務)



沿線の大切な路線 「わたらせ渓谷鉄道」

第二十九回生 高橋 敦



早朝に大宮駅
から上越新幹線
で高崎まで行き、
両毛線に乗り継
ぎ群馬県にある
桐生駅に到着です。今日はわたらせ渓谷
鉄道に乗ってみようとやってきました。

小山行の電車を降りた反対側の一番線
ホームには、チョコレート色の一両だけ
のディーゼルカーが停車していて、ディ
ーゼルカーに乗ると乗客は年配の女性一
人と私だけでした。

運転士さんに一日乗車券を購入したい
がどうしたらいいか聞いたところ「もう
すぐ発車しますのでこの列車の終点、大
間々駅で買ってください。」と笑顔で話
してくれました。

八時五十八分桐生駅を定刻に発車して
相生駅に到着したとき「列車の行き違い
交換のため四分停車します。」とのアナ
ウンスがあったと思つたら先ほどの運転
士さんが笑顔でやってきて三枚のチラシ

を渡されました。内容は、わたらせ渓谷
鉄道の時刻表と接続するバスの時刻、手
書きの沿線マップ、わたらせ渓谷鉄道市
民協議会の通信紙でした。冬の季節に観
光する私にとってもありがたかったです。

列車は定刻通り大間々駅に到着、一日
乗車券を購入し次の列車を待つ間に駅員
さんがいろんな話をしてくれました。わ
たらせ渓谷鉄道は小さな鉄道会社のため
に、経費節約で駅員や運転士がディーゼ
ルカーの整備や燃料補給を自分達でやっ
ているそうです。人口の減少によって輸
送人員が年々減り続けていて経営がとて
も大変だそうです。しかし、沿線地域の
住民やお年寄りの人達にとっては重要で
絶対に必要な路線です。

秋の紅葉シーズンには、わたらせ渓谷
鉄道に乗らないと見られないようなすば
らしい車窓の景色もあります。そのわた
らせ渓谷鉄道を支えているのが地域ボラ
ンティアの人達です。線路沿いの落葉拾
い、倒木の剪定、各駅のイルミネーショ
ンなどのイベントの企画等を行ってくれ
て、とても励みになるそうです。

九時四十六分、定刻に大間々駅を出る
と列車は渡良瀬川沿いを走ります。車内
は鉄道ファンらしきグループや年配の夫
婦連れ、沿線のお婆さんなど合わせて一

〇人乗車しています。途中の神戸駅で五
分の停車です。運転士さんと鉄道写真を
撮りに来たグループとホームで話しまし
たが、知り合いでもないのに鉄道の話に
なるとみんな子供みたいに無邪気になり
ました。神戸駅を出発した列車は草木ト
ンネルに入りました。車内は薄暗くレト
ロな雰囲気、トンネルを抜けて観光案
内のテープが流れると鉄橋や見所では速
度を落として走りました。その度に車内
は歓声とシャッター音で、まるで大人の
遠足です。

一〇時五〇分、通洞駅に到着しここで
列車を降りて足尾銅山を見学することに
しました。銅山の歴史や鉱山の持つ様々
な仕組みを知ることが出来ました。その
後、通洞駅から終点の間藤駅まで歩いて
みることにしました。歩いていると町の
人達が「こんにちは」と挨拶します。私
も「今日はいいい天気ですね」と挨拶しち
やいました。間藤駅には四〇分ほどで到
着しました。

十三時五十九分に間藤駅を発車し、途
中の踏切で運転士さんが汽笛を鳴らした
かと思うと道端で婆さんが手を振って
いました。
十五時二十七分桐生駅に到着。私は降
りる際、運転士さんに「わたらせ渓谷鐵

道はとてもあたたかいですね」と言った
ら、運転士さんも「私もこの鉄道が大好
きです。またいらしてください。」と笑
顔で言いました。

中小の私鉄はどこも経営が大変です。
新しい車両も購入できず、他の電鉄会社
からの譲渡車両で運行されているのが大
半です。残念ながら廃止になった鉄道も
ありますが、わたらせ渓谷鉄道も含めて
頑張っしてほしいと願っています。
(衆議院事務局
第二議員会館課 勤務)

卒業して

第三十二回生 井上 雄二



東交短大卒業
後は、鉄道関連
に就職される方
のイメージがあ
るが、私は在籍

中の昼間にセブイレブンで働いた関係
で流通業界を希望しました。就職先は株
式会社青木正雄商店で日用雑貨・化粧品
等を扱う卸問屋です。

就職後は同社に、二年程新人社員の求

人あり、後輩もつづきました。
しかし、バブルがはじけて会社事情も
様々な変化とともに、約一〇年間勤めま
したが、辞する状況となりました。

その後、青木商店の取引先業者の株式
会社酒有連に移籍。こちらは酒屋主宰の
ボランティアチェーンとして、いわば酒
屋の組合です。本部の運営として小売酒
屋のフォローをする業務でした。一〇年
余り勤務しましたが、会社経営が傾いた
為、本部事務局を縮小しました。

現在は、株式会社エスアイシステムで、
くしくもセブイレブンのチルド部門の
共同配送の運営会社として、倉庫内業務
を指揮する業務をしております。

簡単ですが、卒業してから現況まで振
り返りました。小学校五年になる娘と三
人ぐらし住まいが豊昭学園に程近い、板
橋区内に在中しています。

早いもので卒業して二十五年になりま
す。今尚続く学園の発展を心よりお祈り
いたします。

(株式会社エスアイシステム 勤務)



三〇〇城訪問達成

第三十二回生 八木橋 孝尚

御無沙汰します。

硝子業界に入って今年で二十二年目を迎へ一応中堅と呼ばれる位置になりました。しかし私の所属する建築業界は現状まだ最悪の状況を脱却出来ず硝子とサツシ仲間での倒産・閉鎖・縮小は残念ながら日常茶飯事です。かくいう私も所属する真野ガラス東京事務所長を辞任し事務所閉鎖する事となりました。本社富山勤務を断り都内の硝子工業硝子加工屋へ転籍し二十二年は新しい事への挑戦となりました。

というきつい状況ですが、去年念願だった趣味のお城訪問をようやく三〇〇城達成致しました。訪問地区別は北海道一〇場所・東北地区八十六場所・関東地区一〇五場所・北陸地区十九場所・東海地区四十一場所・近畿地区二十四場所・中国地区一〇場所・四国地区三場所・九州地区二場所こうして見るとやはり行きやすい関東東北地区がダントツで、故郷が弘前なもので今年の抱負はなんとか小遣いを貯め、休暇を家族の了解をもらい駅

の撮影を兼ねて四国九州地区攻略を考えます。後、今まで訪問しててどうしても時間切れや雪等で断念した所、もしくは休館日で涙を飲んで引き返した所これが非常に悔しい本当にそんな所が全国で二十四場所あります。そういう理由で今年のもう一つ趣味の目標は、断念した二十四場所および重要文化財未訪問の三場所を少しでも旅をして場所場所の安くて美味しい郷土料理を食べ、日帰りですが温泉に入りながら駅の撮影を行うって簡単じゃありません。

簡単じゃないから二〇年位かかって三〇〇城でした。せっかく訪問した以上自分はその土地土地を異常なくらい歩き廻ってしまい、裏路地とか僻地とかが大好きでたまに一緒に行く友人達が呆れてしまう様です。断念した二十四場所の半数がまた来たら良い所や、今日はここで慌ててもしょうがないが原因です。確かに一日で一〇城廻った事も有りますが、せっかくですので初めての場所は納得いくまで探し回ってみるのを止められません。今後時間もお金体力が続く限り、お城訪問と駅撮影と丸ポストの探訪は続けます。機会が有りましたら又報告出来ればと思います。宜しくお願致します。

(株式会社硝子工業 勤務)

新潟港と極東ロシア

第四十四回生 國井 一真

私は一九九七年三月に短大を卒業し、流通経済大学流通情報学部流通情報学科に編入学した。短大在学中は、やはり鉄道業界への就職を夢と抱き、就職活動も行ったが、当時は「就職氷河期」であり、また、各鉄道会社の短大生に対する門戸が狭い事も手伝って、志半ばに夢潰え、編入学という道を進む事となった。



そして、流通経済大学では物流関係の講義を中心に履修した事から、次第に鉄道だけでなく、物流全般へと自分自身の興味も移り変わって行き、「再度の新卒就職活動」では、そのような縁もあって「日本通運株式会社」に総合職務として採用して頂く事ができた。

さて、世界トップクラスの規模を誇る総合物流企業に就職して、果たしてどのような世界、社会人生活が待っているのかと胸を躍らせていた所、まずは住み慣れた神奈川を離れ、新潟支店管内にて勤務する事を言い渡された。そして、新潟港での輸出入業務を基とする新潟海運支店で「極東ロシア」に対する輸出入業務を担当する事となった。

新潟港は地方港ではあるが、外国貨物が多数入出港する「特定港、開港」であり、港周辺では、中国、韓国、フィリピン、そしてロシア人と、様々な国籍の船員が上陸、休息、ショッピングを楽しんでいる姿を見る事が出来る。特に目立つのは、「自転車に乗って中古車を買付ける」ロシア人船員だ。

極東ロシアでは日本の中古自動車非常に人気が高く、ウラジオストク、ハバロフスク等の都市では多数の日本車を見る事ができる。そして、それらの中古車のほとんどが彼ら船員によって買い付けられ、新潟港、伏木富山港、小樽港、舞鶴港等、日本海側の港よりロシア船社所有の船舶によって輸出、海上輸送されている。

私は、その中古車輸出、船舶入出港手続き、積載現場での監督等を行っており、

日々、ロシア人に囲まれて過酷にしている。船舶は一九六〇年代生まれの老朽船舶ばかり、船員は時折窃盗、万引き等を起こす。強大国ソビエト連邦の姿はいずこに？
 (日本通運株式会社)

新潟海運支店 (勤務)

総合研修センター講師一年目

第四十五回生 泉 隆明

昨年の六月三〇日をもって、約一〇年勤務したJR東日本新潟支社新潟運輸区を離れ、JR東日本総合研修センターに転出、講師となった。新潟運輸区では運転士の指導担当だったので、将来、研修センターの講師を命じられる事もありそうだと、ある程度は覚悟をしていたが、こんなに早く辞令が出るとは思ってこなかった。しかも所属は、運転士新規養成の要、「制御」の授業を受け持つグループである。

「制御」という授業は、ツナギ図から電気の流れを読み取り、機器と取扱いを結びつけることから始まり、最終的には出区点検や応急処置を行う際の基礎知識となる大切な授業である。幸いなことに

教科書は、新潟支社の主力である一一五系電車をベースとしたものであり、教えることに不安は感じなかった。



十一月中旬に新規養成が始まったが、最初は極度に緊張した。併せてペース配分が掴めなかった。そのため一方的な授業となり、クラスの懇親会では、研修生から『もっと俺たちに振ったり、教科書を読ませたりしてくれ』という意見を貰ってしまった。その夜布団に入っても悔しくて眠れず、朝方まで今後の授業の進め方について考えていた。そして結論と

して、「冗談や“滑る”ギャグ時々を行うことにし、授業で教科書を読むときは、次々リレーさせてゆき、併せて教科書クイズを行う方法とした。その日の授業から実行した。このことで授業の雰囲気が変わり、意見を貰うことはなくなった。

最後に私たち講師から見ると、今の教科書の内容は非常に簡単な内容だと思っっているが、研修生にとっては未知の事が記述してあり、理解できない研修生が出たり、奇想天外な質問をしてくる研修生が出たりして頭を抱えている。授業の後、講師室で同僚や先輩達とそのことで話をするのだが、ふと思うことがある。短大在学中に、私も講師陣を悩ませていた一人ではなかったのかと…つくづく人にものを教えるという仕事は難しいと感じる今日この頃である。

(東日本旅客鉄道(株)(出向))

株JR東日本パソネル

サービス GEC事業本部

白河営業所

JR東日本

総合研修センター (勤務)



時の流れの早さに驚く

第四十八回生 五明 胤



昨年十二月、同窓会事務局から原稿執筆のお願いという葉書を頂いて、「よし、書こう」と思ったわけですが、時が経つのは早いもので、短大を卒業してからももう九年が経とうとしているんですね。卒業してからまだそんなに経っていないように感じていましたが、時の流れの早さには驚くばかりです。

私は現在、JR東日本で電力指令の指令員として勤務しています。指令というと輸送指令が頭に浮かんでくると思いますが、電力指令と聞くと「？」と思う方が多いのではないのでしょうか。私の勤務する電力指令は、電車の運転に必要な電気、信号や通信施設、駅などへ電気の供給をする電気運転設備を二十四時間体制で監視・運転統制している部署です。近年ではエキナカなどで駅の電力需要が高まっており、また、事故などで停電が発生すると多くのお客さまにご迷惑をおか

けすることから、常に気の抜けない職場です。当初は一交代勤務に慣れないというところもありましたが、今では平日の非番を利用して、ちよつと遠くまで出かけてみたりと非番や休日を活用して、充実した日々を過ごしています。今、各企業の技術部門では技術継承の問題が叫ばれています。鉄道も例外ではありません。いわゆる団塊の世代の方が退職を迎えていく中、先輩方の技術・知識をいかに自分のモノにするのが私自身の大きな課題です。いつまでもお客様に安心してお乗りいただける鉄道を創っていくために、これからも現状に甘えず、全力で頑張っていきたいと思っています。

(東日本旅客鉄道株式会社 勤務)

スターティングメンバー

第五十一回生 田端 伸行



「首都圏新都市鉄道」と聞いて、それどこの会社？と思う人はたくさん居ると思います。しかし、「つくばエクスプレス」

レス(TX)」と聞けばほとんどの方は分かると思います。「つくばエクスプレス」は路線名で、それを運営しているのが「首都圏新都市鉄道」という会社です。

私が入社したのは平成十六年四月。乗務要員として採用され、最初の1年間は電車の免許(動力車操縦者運転免許)を取る為の研修づくしでした。駅務・車掌の経験をし、運転士の学科を四ヶ月、実技を四ヶ月行い免許を取得しました。

平成十七年八月二十四日、秋葉原とつくばを結ぶ五十八・三kmが開業しました。会社の一期生スターティングメンバーとして開業を迎えることができました。今年の八月二十四日で開業五周年を迎えます。開業当初、沿線は畑ばかりでしたが、駅を中心としてマンションや商業施設が次々と建てられています。乗降者数も当初の予測より上回っており、一年には増発用に四編成を増備しました。

沿線には浅草やつくばなどがあります。近年の登山ブームで、新緑や紅葉の時は、筑波山にお出でになる方が多数いらっしゃいます。ぜひ、つくばエクスプレスに乗ってお出掛け下さい。

(首都圏新都市鉄道株式会社 勤務)

中身の濃い五年間

第五十一回生 本多 政高

母校を卒業し、つくばエクスプレスに入社して早五年。第一期駅社員とし、鉄道の開業に立会えた感動を私は生涯忘れず事はないでしょう。つくばエクスプレスは今年で開業五周年を迎えます。全駅にホーム柵を設置しており、これまで大きな事故もなく雨・風などに強く、最近では台風で首都圏の鉄道が軒並み運転を見合せる中、当社では高い防音壁が防風対策になり、最高速度一三〇キロの通常運転を行い多くの方から「安心・安定・安全」が評価され、乗降客数も着実に増加しております。

私の近況報告ですが開業から四年半の間、北千住駅で駅員とし勤務しておりますが、昨年十月に本社へ異動となり、現在は沿線開発の仕事を行っております。駅員として勤めていた北千住駅は、ターミナル駅として大変乗降客も多く色々な経験・体験ができました。一番忘れられない出来事は、小学生のお客様からファンレターでは無いのですが、「いつも挨拶をしてくれてありがとう」と書かれ

た内容の手紙を頂いた事です。この手紙を見た時は大変感動し、鉄道会社に入社して良かったと心の底から思いました。私にとつて今でも大切な宝物です。

今は本社勤務でお客様と接する機会は減ってしまいましたが、沿線の発展・お客様の利便性を更に向上させる為、日々全力で業務に勤めています。

私の中でこの五年間は、入社・開業・異動・結婚と中身の濃い出来事や出会いがありました。今後も皆様により愛される鉄道会社を目指して自分の力を十分に発揮していきたいと思えます。又、今年父親になる予定でございます。良き父親になれるよう頑張ります！



富山ライトレール視察の際、運転台にて

※フットサル部 (FC 東交) 頑張れ!

(部設立者より)

(首都圏新都市鉄道(株) 勤務)

経験がないこと等の理由で何度もホームシックに襲われた。

それでも、同じように遠くの地方から上京してきた友達と出会うことができ、

私は東京・東京交通短期大学
で育てられた

第五十五回生 田中 敬二郎

短大を卒業して三年経った。私は今現在 J R 西日本で主に特急サンダーバード・特急しらさぎ・特急はくたかと言った列車の車掌をしているが、鉄道の仕事に就くのは私の夢だった。私の夢を叶える手助けしてくれたのはまぎれもなく東京・東京交通短期大学だ。今でも短大での日々、東京での日々が鮮明に思い出せる。

私の出身は香川県だ。幼い頃より鉄道が好きで東京交通短期大学の名は鉄道雑誌で知っており中学の頃からだと思いが是非とも通いたいと思っていたのは覚えている。

その後希望通り入学試験にも受かり通えることになったが期待や嬉しさの反面、急に都会で一人暮らしをすることになり、知人が居ないこと、今まで一人暮らしの

経験がないこと等の理由で何度もホームシックに襲われた。それでも、同じように遠くの地方から上京してきた友達と出会うことができ、その友達と同じ鉄道会社でアルバイトをし、共通の趣味のボウリングをしたりして、日々の生活が楽しく充実していた。

また、短大の学生生活では素晴らしい先生方にも指導をして頂き、興味のある科目に出合い、先生方には私生活でもよくして頂いた。学んだ科目は今でも仕事に存分に生かしている。育てて頂いたと言っても過言ではない。

ちなみに私は卒業してからも仕事が疲れたり、もやもやしたことがあると今でも短大や住んでいた街を訪れる。そこには三年経ったが変わらず私を暖かく迎えてくれる先生方や街で出会った方々、育ててくれた第二の故郷がある。

余談だが、東武東上線下板橋駅と短大のほぼ中間地点に私が足しげく通ったラーメン屋があり、短大を訪れた時は必ず立ち寄っている。老夫婦が営業しているのだが、今でも変わらず笑顔を振りまいてくれる。短大生が初めて行っても必ず暖かく迎えてくれる。今私の職場にも短大の同級生や先輩が居て、よく思い出話に花が咲く。是非とも短大から卒業した

後輩と仕事がしたいと常々思っている。

最後になりましたが、短大の先生方、いつも本当にお世話になっております。最近段々もやもやが溜まって来ました。東京へのホームシックにもなってきました。お話ししたい話題も溢れてきました。近々短大に、先生方に、東京に会いに行きます。一緒に思い出話に花を咲かせて頂けませんか? 私は卒業した今でも短大の学生です。まだまだ育てて頂きたい。これから先も。

(西日本旅客鉄道株式会社 金沢支社勤務)

私の今の近況

私の今の近況

第五十五回生 加藤 雄治



平成十九年三月に東京交通短期大学を卒業した加藤と申します。現在私は株

式会社アクティオという建設機械のレンタル会社で業務マンとして勤務しております。入社後は、二カ月程度機械のことについて勉強をしてそのあと営業所に配

属になりました。

私の配属先は、調布営業所でした。ここではお客様の対応や発電機などの小型機械の点検や月に一度の月例点検で、中央線の高架化工事や京王線の調布駅連続立体交差化工事の現場に行ったりしあつという間に終わりかつ勉強の日々でした。その後、埼玉県入間市にある多摩重機工場に異動になり現在もここで勤務をしています。ここはバックホーやコンバインドローラー、軌陸等を扱っている工場です。私はそこで機械の洗車、点検、修理をしています。特に点検、修理は、ボルト一つでもないと危ないので点検中や修理中は集中してボルト一つでもないか確認しながらやるため、ものすごく責任感のある仕事です。

この工場は少し特殊で軌陸、特に軽便トロツコは、ここしか扱っていないため全国に貸し出しています。この軌陸とは、簡単にいえば J R 北海道が持っている D M V と似ていて、違うところは人を乗せるか物を載せたり吊るしたりするかどうかです。また道路も走れてレール上も走れる機械です。これらの機械は特殊で軌陸バックホー等は貸し出す前にコベルコ等の製造会社に一度点検を頼まないといけない機械で、普通の機械より繊細な



多摩重機工場 勤務)

(株)株式会社アクテイオ

機械なため動かす時はいつも壊れないかハラハラしていました。そんな多摩重機工場も不況のあおりを受け今年二月に閉鎖し近くの工場に移動することになり、私も、また違うところに移動になるかもしれない。しかし私はどこに行っても頑張っていこうと思います。

最後になりますが、私は第二色覚異常で、夢である鉄道の仕事はあきらめなくては行けません。しかしこの東京交通短期大学で学んだことは、けっして無駄ではなかったと日々実感しています。また、読者の皆様夢はあきらめなければ必ずかなうと思います。私もあきらめませんので、皆様もぜひ夢をあきらめないでください。

同窓会活動報告

東交祭同窓会ブース活動報告

第四十一回生 武田 浩一



同窓会として
初の試みといた
しまして、平成
二十一年九月十
九日及び二十〇日

に開催されました東交祭の開催する中で、校舎三〇二号室をお借りして同窓会ブースを設置しました。内容としては、まず短大同窓生へは会報配布などで必要となる現在の住所を伺う為の記帳や、同窓会の活動に際しての協力を求める寄付、そのご協力の御礼と致しまして鉄道会社や同窓生から寄贈していただいた鉄道グッズの配布を行いました。

また同窓会報のバックナンバー(最近のもの)を配布し、同窓会や現在の短大の活動や卒業生の近況などを、在校生や来客にも伝え理解を深めてもらいました。

ご来場のお客様に向けましては、出版会社に勤務されている同窓生より提供されました、鉄道地図やグッズの物販をい

たしました。在校生向けといたしましては、在校生が特に希望する就職先となるJRや大手私鉄などの各鉄道会社の就職・会社案内の閲覧や配布を実施しました。今回ご用意させていただきました各鉄道会社の就職及び会社案内は、同窓会の依頼により本活動に御賛同頂きました鉄道会社様よりご提供頂きました事を付記致します。

そしてそれに関連しまして、実際にブースにいる同窓生(特に鉄道業界勤務者)が在校生に向けて就職について、また実際に鉄道業界の現場がどのようなものかを話す相談コーナーを設置し、特に就職活動が今年始まる一年次はOBの経験談に熱心に耳を傾けていました。また鉄道に興味の有るご来場のお客様も鉄道員の普段の姿を知り喜んでおられました。来年以降も以上の様な形で活動予定です。

在校生には同窓会の存在について知ってもらい、卒業後同窓生になった際は参加や支援をしていただき、また同窓生につきましては東交祭また同窓会への活動についての理解を深めていただくため、そして同期生やクラブ活動で一緒だった先輩後輩との再会の場として是非参加していただきたいと思えます。私自身の感想としては東交祭に参加できて、在

校生の活力、やる気を実感し、また同じ学校を出た者同士の懐かしい思い出や現況、また同業や色々な職種のコモヤマ話を聞けたりしてと、とても充実した“祭り”でありました。

短大事務局、教職員そして東交祭実行委員の方々には今回の活動に際してご協力ありがとうございました。

(東京急行電鉄(株))

雪が谷大塚乗務区 勤務)



東交祭同窓会ブース相談コーナーの様子

同窓会の内情について

会計（第四〇回生） 星 昭

今年度は平成二〇年九月の同窓会総会にて役員改選が行われた新体制での同窓会となり、平成二十一年九月十九日に池袋の地球飯店にて同窓会総会が開催され、同窓生十七名と田中学長および松岡副学長にもご参加いただきました。

総会の中で同窓会の平成二〇年度会計報告をいたしました。平成二十一年度への繰越金が五万円を切る状況となった（これは卒業生が七十五名と、ここ最近一〇〇名を割っていることが原因です）ので、収入に応じた支出に改めていく必要があると説明いたしました。その後の編集委員会で予算面の対策を話し合いましたが、収入の面で即効性のある対策は無く、支出の面から改善を行うと言うことになりました。支出で最も大きいものとしては同窓会会報の印刷・発送を行う通信費が挙げられます。前年度の実績ですと下記表の通り約四十二万円程掛かっており、これを圧縮できればある程度は健全化すると考え、今号からページ数の削減（前号二十八ページ・今号十六ペー

ジ）を行いました。そのままページ数を削減するのは記事掲載量が大幅減になりますので、大判化（B5からA4へ）により一ページ当たりの文字数を増加させました。しかし今年度は乗り切れても来年度については更に踏込んだ対策が必要と思われま

す。続いて現在の同窓会活動のメインとなっており、前段でも述べた通り予算的な制約が発生しており、思い切った紙面の刷新が必要となります。しかしながら現有編集戦力三名では、十分な対応ができない状況です。で、企画作成にご協力いただける方をお待ちしております。

同窓会活動として新たに東交祭に同窓会ブースを出すことになりましたが、報告につきましましては、前項に第四十一回生の武田氏の報告が記載されており、その中で割愛させていただきます。実行と運営につきましましては、取り合えず第四〇回生および第四十一回生の即応できる同窓生で行いましたので、来年度も継続するためにはご協力いただける方を募らなければならぬ状況です。そのほかに同窓生個人単位で行事等を行い、同窓生に参加を呼び掛けるにしても同窓会報は年一回の発行であり、参加募集の媒体としては

向いておりません。インターネットであればリアルタイムに更新できますので、参加募集の媒体としては最適と思われま

すが、今現在同窓会ホームページの管理者がおりません。何か求人誌みたいになつてしまいましたが、ホームページ管理をしていただける方、お待ちしております。

簡単ではありませんでしたが、同窓会として抱えている問題を述べさせていただきました。積極的に活動されている役員のみでは不十分な部分があり、先に述べたこと以外でも同窓会活動にご協力いただける方をお待ちしております。最後にありますが、下記表の説明をさせていただきます。下記表は平成二十一年四月一日から一月二〇日現在の会計状況です。赤字に関しては掛かるであろう金額を載せてあります（予算）。なお渉外費については前年が豊昭学園八〇周年記念式典祝儀の支出があつたため、前々年度の実績を記載しております。ただし通信費に関しては執筆現在の状況では圧縮が可能ですので、赤字化は避けられるものと思われま

平成 21 年度会計予算(案)

(平成 21 年 4 月 1 日～平成 21 年 11 月 10 日現在の実績及び予算)

収入の部			支出の部		
項目	金額(円)	適用	項目	金額(円)	適用
繰越金	49,468		集会費	79,589	東交祭・幹事懇親会
会費	360,000	5,000 円×72 名	事務費	64,708	前年度実績
臨時会費	81,000	東交祭・幹事懇親会	通信費	421,090	前年度実績
寄付金	93,637	ブース売上(寄付) 会員多数他より	渉外費	36,120	前々年度実績
雑収入	24	利息	会議費	26,309	前年度実績
			雑費	0	
			繰越金	0	
収入計	584,129		支出計	627,816	▲43,687(前年実績同様の場合)

(京急電鉄株管財部 勤務)

平成 22 年度 特別教養講座カリキュラム(案)

前・後期共 (土) 13:10 ~ 14:40

(敬称略) *は本学卒業生

開講日	講演者	テーマ
4月10日	注金ピカ先生 拓殖大学客員教授	マイナスをプラスに変える
4月17日	*阿部 敏彦 本学名誉教授	雑学を知る…その 2
4月24日	齋藤 順治 JR東日本グリーンパートナーズ(株) 取締役社長	JR 東日本の誕生から現在
5月 1日	小林 末男 拓殖大学監事	共創のコミュニケーション
5月15日	西山 克彦 東急ファシリティサービス(株) 取締役相談役	鉄道と一体的に開発した多摩田園都市の街づくり
5月22日	森田 喬 法政大学デザイン工学部教授	地図に見る交通
5月29日	荻原 俊夫 (株)東急テクノシステム常務取締役	東京急行電鉄の車両技術
6月 5日	平田 一彦 東武鉄道(株)取締役財務部長	都市鉄道をめぐる経営環境
6月12日	阿曾 貞夫 東日本旅客鉄道(株)池袋駅駅長	これからの JR 東日本グループ
6月19日	子役丸 幸子 (財)運輸調査局主任研究員	イギリスの鉄道について
6月26日	前田 悦子 駿河台大学経済学部准教授	少子高齢社会と年金
7月 3日	鈴木 順一 本学名誉教授	2010 年はこうなる
7月10日	*遠藤 ユウキ フリーライター	鉄道旅行と廃線跡
7月17日	小山 徹 埼玉大学客員教授	ストックホルムの都市計画と新路面電車開業
7月24日	櫻井 寛 鉄道フォトジャーナリスト	「オーストラリア大陸縦断特急の旅」 全長 3000 キロ、気温 45 度の大地
9月25日	田中 宏司 本学学長	企業不祥事とコンプライアンス経営
10月 2日	萩野 博司 朝日新聞社事務担当補佐	新聞の役割をともに考える
10月 9日	栗原 優 慶応義塾大学経済学部講師	交通における外来語の役割
10月16日	渡部 正治 ジェイアイ傷害火災保険(株) 企画総務部長	交通のリスクマネジメントと保険の役割
10月23日	*半沢 貞夫 交通新聞サービス(株)制作部長	書籍出版の企画から販売
10月30日	君島 光夫 アジア航測(株)技術顧問	都市地下鉄の建設経緯一開業 50 年一
11月 6日	花上 嘉成 東武博物館館長	未定
11月13日	*川島 一郎 東日本鉄道OB会 東京地方本部専務理事	元気な JR 東日本グループ
11月20日	須田 文男 (株)ルミネクリエーツ 事業部担当課長	現場力・現場が仕事の最前線・良くも悪くもお客様に評価される
11月27日	近藤 節夫 著述業	若い時に臨場感を磨け!
12月 4日	辻村 功 クールプレムセ鉄道システムジャパン(株) プロジェクトエンジニア	粘着のはなし
12月11日	神立 哲男 日本貨物鉄道(株) 常務執行役員 東海支社長	鉄道貨物輸送の現状
1月 8日	小野寺 理文 職業能力開発総合大学校准教授	最新のセンシング技術とその“しくみ”
1月15日	佐藤 美知男 鉄道博物館客員学芸員	通行区分事情一右か左か一
1月22日	湯田 聡 関東バス(株)阿佐ヶ谷営業所長	地域密着型交通機関「路線バス」の魅力を探る

※ 特別教養講座は公開講座(無料)です。日程は変更する場合がありますので、聴講を希望される方は事前に短大事務局(03-3971-4704)へお問い合わせの上、ぜひお越しください。

なお、オープンキャンパス時は入学希望者優先となります。

注) ご本人のご希望により、本名ではなく芸名で表記しています

平成 22 年度 時間割表 (案)

第 1 時限	第 2 時限	第 3 時限	第 4 時限		第 1 時限	第 2 時限	第 3 時限	第 4 時限
13:10~14:40	14:50~16:20	16:30~18:00	18:10~19:40		13:10~14:40	14:50~16:20	16:30~18:00	18:10~19:40
	歴史学 A/B (安彦)	交通概論 A/B (岡本)	法学 A/B (松岡)	月	交通論 ゼミ (秋葉)	鉄道経済論 (前期) 航空論 (後期) (秋葉)	企業倫理 (前期) 交通の社会的責任 (後期) (田中)	鉄道施設論 (後期) (川津)
		基礎ゼミ III (原谷)	保健体育 理論 A/B (藤城)		経営管理論 (前期) (安彦)		海運論 (前期) (山岸)	情報システム論 (前期) 情報関係 法規 (後期) (柴田)
キャリア形成論 I (前期) キャリア形成論 II (後期) (桑原)	旅行業務論 (前期) 観光プランニング 実践(後期) (佐藤勝)	鉄道システム論 (前期) (川津)	環境科学 概論 A/B (中村)	火		交通英語 (前期) (原谷)	交通経済学 (前期) (上遠野)	自動車 交通論 (前期) (上遠野)
		数学特講 A/B (原谷)	心理学 A/B (兼高)		交通情報論 (後期) (原谷)	観光 研究ゼミ (小池鉄)	観光事業論 (前期) サービス産業論 (後期) (小池鉄)	
哲学 A/B (篠原)	観光関係 法規(前集) (森住)	観光学概論 A/B (森住)	英語 II (小池知)	水	中国語 A/B (山口)	鉄道運転論 (前期) (川津)	簿記論 (前期) (佐藤良)	コンピュータ 実習 III (守屋)
基礎ゼミ IV (佐藤)	鉄道数学 II A/B (蔵野)	英語 I (小池知)			都市・地域 交通論ゼミ (岡本)	交通需要論 (後期) (岡本)	コンピュータ 実習 II (守屋)	
鉄道数学 I A/B (蔵野)	経済学 A/B (亀川)	基礎ゼミ I (柴田)	実務基礎能 力論 A/B (柴田)	木	交通環境論 (前期) 交通経営学 (後期) (大田)	交通関係 法規(前期) 経営法学 (後期) (松岡)	交通判例 分析ゼミ (松岡)	鉄道技術論 ゼミ (川津)
文学 A/B (秋山)	コミュニケーション 論 A/B (秋山)	基礎ゼミ II (大田)	体育実技 A/B (山市)		交通経営論 ゼミ (亀川)			
		基礎ゼミ V (桑原)						
キャリア支援論 I A/B (佐藤勝)	キャリア形成論 B II (後集) (秋山)	自然科学 概論 A/B (佐藤信)		金	物的流通論 (前期) (古井)	キャリア 情報論 (前期) (桑原)	キャリア支 援論 II A/B (佐藤勝)	コンピュータ 実習 I (花山)
		経済学 A/B (長谷川)			社会政策 研究ゼミ (長谷川)			
特別教養 講座 A/B (松岡)	観光関係 法規(前集) (森住)	統計学 A/B (岡本)		土	交通会計論 (前期) 交通史 (後期) (大田)	交通技術論 A/B (樋口他)	旅行論ゼミ (森住)	
		英語 III (小池知)						

会 計 報 告 書
(平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日)

平成 21 年 4 月 1 日
東京交通短期大学 同窓会

収入の部			支出の部		
項目	金額(円)	適用	項目	金額(円)	適用
繰越金	248,579		集会費	105,677	東交祭・幹事懇親会
会費	375,000	5,000 円×75 名	事務費	64,708	プリンタ用品他
臨時会費	77,000	東交祭・幹事懇親会	通信費	421,090	会報 33 号発行・発送 東交際開催案内等
寄付金	18,000	会員 2 名より	渉外費	52,020	豊昭学園 80 周年式典祝儀 会長賞記念品
雑収入	693	利息	会議費	26,309	会報発送作業
			雑費	0	
			繰越金	49,468	
収入計	719,272		支出計	719,272	

この報告書は検討の結果、その収支は正当かつ妥当であることを認めます。

平成 20 年 4 月 1 日 会計監査 堀 丈夫[Ⓔ]，村越 輝夫[Ⓔ]

お知らせ

- 一、会報バックナンバー
インターネットより、
<http://www.hosho.ac.jp/toukou/OB/index.html>
にアクセスしていただき、会報ボタンをクリックすると、第二十二号から第三十二号まで閲覧できます。
- 二、東交祭
平成二十二年九月十八日(土)～十九日(日)に開催予定です。十八日(土)に同窓会懇談会も予定しています。詳細は右記ホームページに掲載します。
- 三、広告募集
東交大同窓会会報に掲載する広告を募集する予定です。詳細について同窓会事務局宛に書面もしくは電子メールでお問い合わせください。
- 四、同窓会事務局運営スタッフ募集
同窓会で行う行事や同窓会報およびホームページ作成をお手伝いいただける方を随時募集しておりますので、同窓会事務局宛に書面もしくは電子メールでお問い合わせください。
- 五、原稿執筆案内
 - ①題 材 自由
 - ②執筆要領
 - ・文章の場合
 - 市販の原稿用紙か電子データの入ったメディアを郵送、または電子メールにて、八〇〇字程度でお願いします。
 - ・写真/イラスト/カットの場合
 - そのまま版下とします。電子データでも結構です。
 - いずれもタイトル、卒回、氏名、勤務先を明記し、写真も添付してください。
 - ③原稿締切 毎年一月末日
 - ④送付先 〒一七〇〇〇一一

東京都豊島区池袋本町二一九一
東京交通短期大学 同窓会事務局宛
E-mail: toukouOB@gmail.com

編集後記

▼今号をもって、編集長を辞することになりました。第十八号(平成六年)から会報制作に携わりましたが、同窓生の皆様にご迷惑をお掛けしたことばかりが思い出されます。この場をお借りして改めてお詫び申し上げます。引き続き星委員、岡委員に暖かいご支援、および同窓会へのご協力をお願い致します。

(編集長 N)

▼今号より多少紙面が変わっております。今後の会報は試行錯誤になり、皆様に見づらい紙面になるかも知れませんが、何卒ご容赦の程、お願い申し上げます。我こそはという方、編集への参加おまちしております。最後になりましたが、西形編集長、長年の編集作業お疲れ様でした。

(副編 H)

▼今回、編集委員として初めて同窓会報の作成にあたりました。普段あまりパソコンに向かわないこともあり、Hさんのご指導をいただきながら何とか担当の作業をすることができました。昨年は東交祭の同窓会コーナーで先輩方と交流しました。今年も同期と会いたいです。

(編集 O)